

世田谷区将来人口の推計（概要版）

新たな世田谷区基本計画の策定にあわせ、基礎調査として行った世田谷区将来人口の推計について、推計値が確定したので概要をまとめた。

将来人口推計とは

将来人口推計は、計画策定に際し、前提となる人口の規模や年齢区分などに関する基礎資料とする。ただし、科学的に将来の社会を定量的に正確に描く方法はなく、現状で求めうる人口推計にかかるデータと確立している手法を組み合わせ客観的に推計を行った。

本概要版は、人口推計の手法に始まり、総人口・年齢 3 階層別人口、政策テーマに応じた特定年齢人口・地域別人口などの推計結果を表と図（別紙）で表しながら、説明し、さらに東京都や国の推計と比較し解説した。加えて将来世帯数についても推計した。

1 基本推計

1.1 将来人口推計の方法

- (1) 推計期間 平成 26 年から平成 35 年までの 10 年間(1)
- (2) 基準人口 平成 25 年 1 月 1 日の住民基本台帳人口
- (3) 推計方法 「コーホート要因法」を用いる
(変動要因は「出生」(2)、「移動」、「死亡」の 3 要因を用いる。
但し、外国人人口においては、コーホート要因法が馴染まないことからトレンド推計を用いている)

1：推計期間は 10 年間を基本とし、平成 36 年から平成 50 年までの 15 年間は、社会動向の影響を強く受けることから「見込み」として算出する。

2：「出生」は、従来 of 合計特殊出生率ではなく、国の推計手法にあわせ「女性子ども比」を使用し、区の過去 10 年間の推移から推計した。

推計値及び構成比は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合がある。

1.2 推計結果

(1) 総人口

世田谷区の総人口の将来推計は、一貫して増加傾向が続き、平成35年には873,332人となり、平成25年と比較して27,410人増加する。また、その後の見込み期間についても、推計期間ほどではないものの増加傾向が続き、平成50年には、平成25年と比べて37,087人増の883,009人に達する見込みである。【図1】

また、外国人を含めた総人口は、平成35年には889,899人となり、平成25年と比べて29,150人増加する。さらに、平成50年には900,446人となる見込みである。【図2】

表1 総人口の推移

(単位:人)

総人口	現在	推計		見込み		
	H25年	H30年	H35年	H40年	H45年	H50年
日本人のみ	845,922	861,383	873,332	879,035	881,360	883,009
外国人を含む	860,749	877,587	889,899	895,922	898,535	900,446

(2) 年齢3階層別人口(年少(0-14歳)、生産年齢(15-64歳)、高齢者(65歳以上))

人口の推移

年少人口は、推計期間中(平成35年まで)は増加傾向にあり、当面の間、少子化は進まないが、その後、女性人口の減少により減少傾向に転じる見込みである。

また、高齢者人口については一貫して増加が進み、特に平成40年代後半からは、団塊ジュニア世代(1971~1974年生まれを中心とした世代を言う。)が高齢者層に入るため、高齢者人口の伸びが一層高まり、世田谷区においても少子高齢化が顕著に表れる見込みである。

なお、生産年齢人口については、概ね横ばいの水準が維持される。【図3】

表2 年齢3階層別人口の推移

(単位:人)

年齢3階層別人口	現在	推計		見込み		
	H25年	H30年	H35年	H40年	H45年	H50年
年少人口	97,521	103,290	107,756	104,121	96,806	89,704
生産年齢人口	584,917	579,620	584,973	587,472	581,939	571,309
高齢者人口	163,484	178,473	180,602	187,443	202,615	221,996

外国人人口は含まない

構成比の推移

総人口に対する年少人口の構成比を全国・東京都と比較した時、現時点では全国の数値を下回っているが、しばらくは年少人口の増加が続くため、平成33年には、全国の11.7%を上回り12.3%となる。また、その後は世田谷区においても減少傾向になるものの全国・東京都よりも高い推移を保つ見込みである。【図4】

高齢者人口の構成比は、現時点で全国・東京都を大きく下回っている。今後、高齢者人口の増加により構成比も一貫して増加傾向にあるが、全国・東京都を下回ったまま推移する見込みである。【図5】

表3 全国・東京都との構成比比較（年少人口）（3）

	H28年	H33年	H38年	H43年	H48年
世田谷区	11.8%	12.3%	12.1%	11.3%	10.5%
東京都	11.1%	10.7%	10.0%	9.2%	8.9%
全国	12.5%	11.7%	11.0%	10.3%	10.1%

区の構成比は外国人人口を含まない

表4 全国・東京都との構成比比較（高齢者人口）（3）

	H28年	H33年	H38年	H43年	H48年
世田谷区	20.5%	20.7%	21.0%	22.4%	24.2%
東京都	23.1%	24.3%	25.2%	27.0%	29.8%
全国	26.8%	29.1%	30.3%	31.6%	33.4%

区の構成比は外国人人口を含まない

3：全国及び東京都の人口構成比は、国立社会保障・人口問題研究所の推計結果（日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計））による。各年前年10月時点の数値。

(3) 特定年齢人口

本推計では、「総人口」、「年齢3階層区分」の他に、特定の年齢層にスポットを当てた推計を行っている。今回行った特定年齢人口推計は、これまで行ってきた「幼児人口(0-6歳)」、「児童数・生徒数(7-12歳・13-15歳)」、「前期及び後期高齢者(65-74歳・75歳以上)」の他に、区の施策の中でも大きな取組みの一つである保育施策について、対象となる年齢にあわせた「就学前人口(0-5歳)」の推計を行った。

概要版では、「就学前人口」と「高齢者人口」についてのみ、考察する。

就学前人口は、平成30年までは引き続き増加し、1,344人増の42,851人との結果が出た。しかし、その後は女性人口の減少により、減少傾向に転じ、平成37年ごろには、現在の水準まで戻り、その後も平成45年ごろまで減少が続き、下げ止まる見込みである。平成50年には33,874人となり、現在と比べ7,633人減少する見込みである。【図6】

表5 特定年齢人口(就学前人口)の推移

(単位:人)

特定年齢人口	現 在	推 計		見 込 み		
	H25年	H30年	H35年	H40年	H45年	H50年
就学前人口	41,507	42,851	42,290	38,275	34,330	33,874

外国人人口は含まない

高齢者人口については、65歳以上75歳未満の高齢者(前期高齢者)と75歳以上の高齢者(後期高齢者)に分けて考察する。

前期高齢者は、平成28年の88,037人をピークに一旦減少に転じ、団塊世代が後期高齢者に移行し始める平成35年以降大きく減少した後に平成38年以降に再び増加に転じ、平成45年以降は増加が一層大きくなり、平成50年には、115,817人となる見込みである。

後期高齢者は、増加傾向が続き、平成35年には、現在と比べて15,228人増加し、98,479人となる。その後、団塊世代が移行することにより平成35年頃から増加の度合いが増すが、3~5年程度で移行が終了したのちに横ばいから微減に転じ、その後平成46年頃に再び増加に転じる見込みである。平成50年には、現在と比べて22,928人増加し、106,179人となる見込みである。【図7】

表6 特定年齢人口(前期及び後期高齢者)の推移

(単位:人)

特定年齢人口	現 在	推 計		見 込 み		
	H25年	H30年	H35年	H40年	H45年	H50年
前期高齢者	80,233	87,023	82,124	82,065	99,558	115,817
後期高齢者	83,251	91,450	98,479	105,377	103,057	106,179

外国人人口は含まない

(4) 地域別人口(4)

この度の地域別人口推計は、北沢地域を除く4地域で、推計期間中、増加傾向となった。具体的には、世田谷・烏山地域では、平成35年には、平成25年と比べて約5,500人増加し、玉川・砧地域においては、10,000人以上(砧地域は11,000人以上)増加する。

なお、北沢地域は、平成35年までに約5,500人減少する。

平成36年以降の見込みについては、北沢地域を除く4地域については、平成35年までの伸びはないものの、引き続き増加傾向となる見込みである。

しかし、北沢地域は、平成36年以降、減少傾向がさらに強まる見込みである。

【図8】

表7 各地域人口の推移

(単位：人)

地 域	現 在	推 計		見込み		
	H25年	H30年	H35年	H40年	H45年	H50年
世田谷地域	232,076	235,405	237,652	238,507	238,932	239,903
北 沢地域	141,127	138,442	135,646	132,238	128,807	125,492
玉 川地域	209,354	215,037	219,385	221,853	223,105	223,973
砧 地域	153,077	159,113	164,155	167,590	169,917	171,823
烏 山地域	110,288	113,294	115,782	117,322	118,626	119,949

外国人人口は含まない

4：世田谷区全域を一括で推計した将来人口と、各種地域別データを活用して推計した地域人口の総和とは、個別に設定を行った値を用いているため必然的に同じ値(将来人口)にはならない。しかし、区全域推計と地域別推計の差は平成35(2023)年推計値で0.08%と極めて少ないため、両推計値間の調整は行わないものとした。

2.1 将来世帯数推計の方法

(1) 推計方法 世帯数推計は、上記方法で算出される将来人口をもとに、世帯主率法を用い、世帯主である人口の割合から世帯数を推計する。(5)

5：推計に用いる世帯主率は東京都が設定した世田谷区の世帯主推計値であるが、平成21年の数値が最新であり、その設定値で算出した平成25年の世帯数と実際の世帯数には乖離が生じてしまう。そのため、将来推計を行うためには、その乖離値を補正させる必要があるが、項目(年齢、世帯累計別)ごとに実態値との乖離を算出し、補正することは困難なことから、各項目一律に補正を行い総世帯のみ実態値に合わせている。よって、今回の推計では総世帯数のみ推計することとし、各項目(世帯累計別等)の推計は、東京都が最新の世帯主率を公表してから別途推計することとする。

2.2 世帯数推計結果

(1) 総世帯

将来人口の増加に伴い、総世帯数は増加し続け、平成35年には449,660世帯となり、現在の世帯数(平成25年)と比較して13,057世帯増加する。また、平成50年には462,293世帯に達する見込みである。【図9】

なお、1世帯当たりの人数は、1.9人程度で推移する。

表8 総世帯の推移 (単位:(上段)世帯・(下段)人)

総世帯	現在	推計		見込み		
	H25年	H30年	H35年	H40年	H45年	H50年
総世帯数	436,603	444,371	449,660	453,695	457,572	462,293
1世帯当たりの人数	1.94	1.94	1.94	1.94	1.93	1.91

参考 高位推計（シナリオ推計）

1．高位推計（シナリオ推計）の方法

- (1) 推計期間 平成 26 年から平成 35 年までの 10 年間(6)
- (2) 基準人口 平成 25 年 1 月 1 日の住民基本台帳人口
- (3) 推計方法 基本推計と同じ「コーホート要因法」を用いる。
- (4) 設 定 出生要因の基礎となる女性子ども比について、高位推計（シナリオ推計）では、過去 10 年間と同じ伸びが今後 10 年間も続く設定とする。【図 1 0】

6：長期間の推計は社会動向の影響を強く受けることから高位推計（シナリオ推計）については、10 年間のみの算出とし、平成 36 年から平成 50 年までの 15 年間の推計は行わない。

2．推計結果

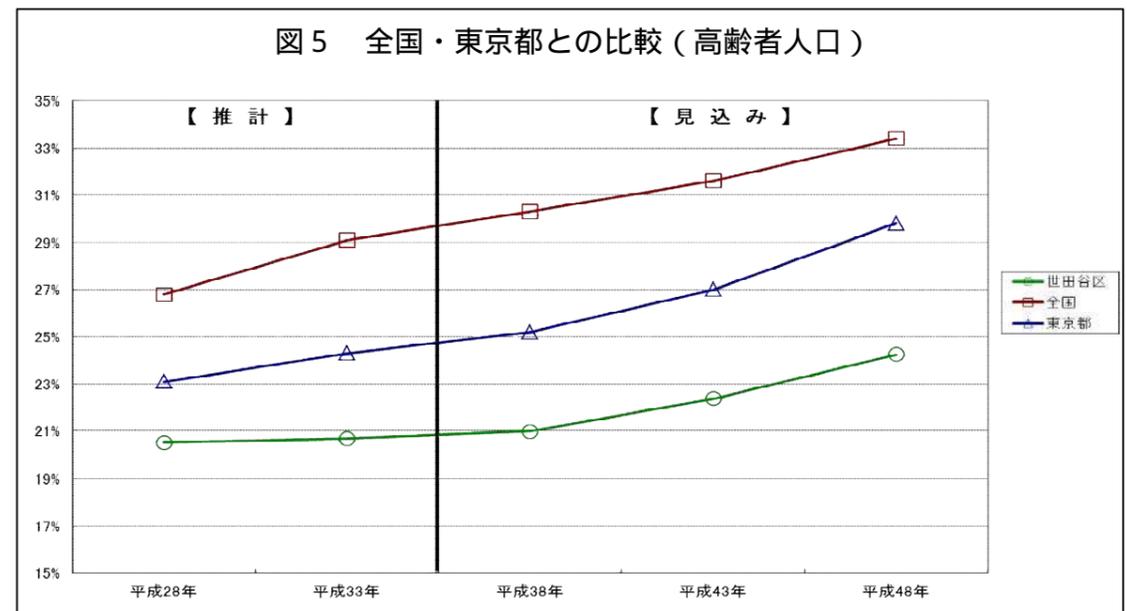
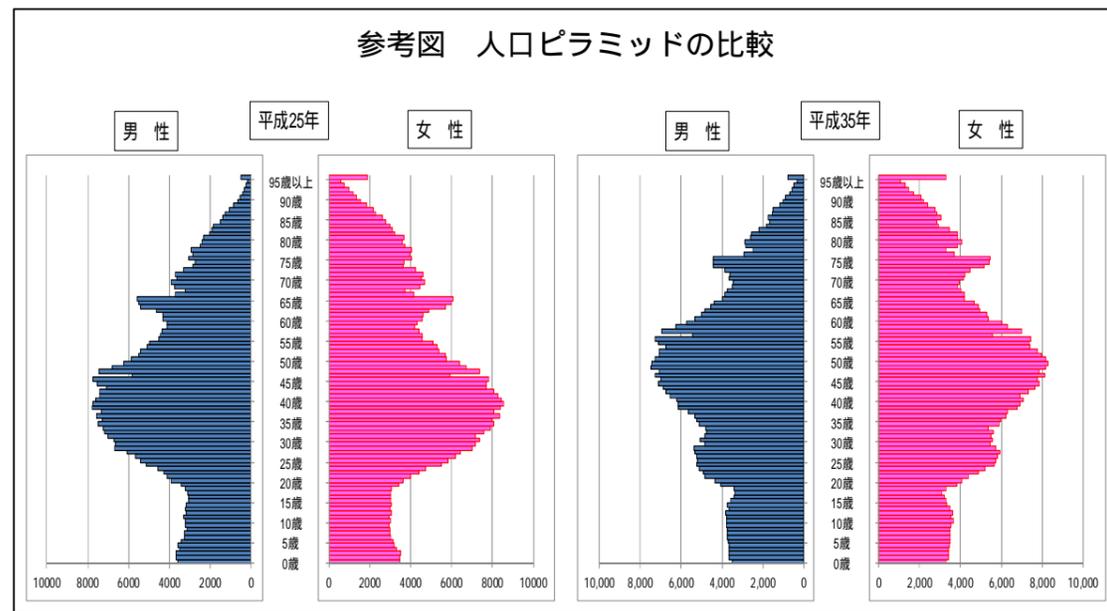
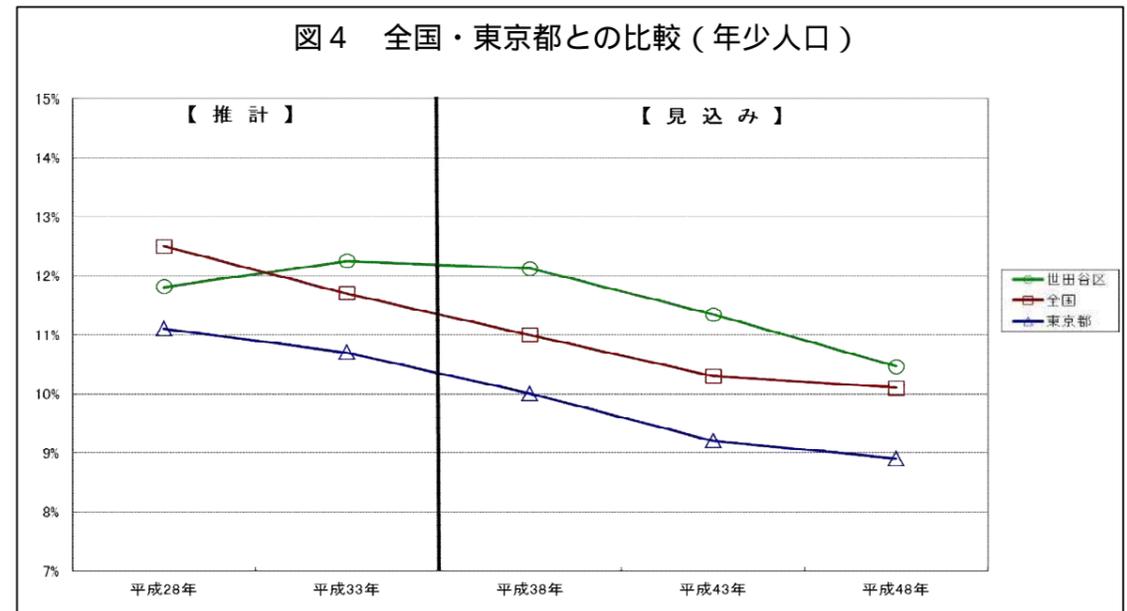
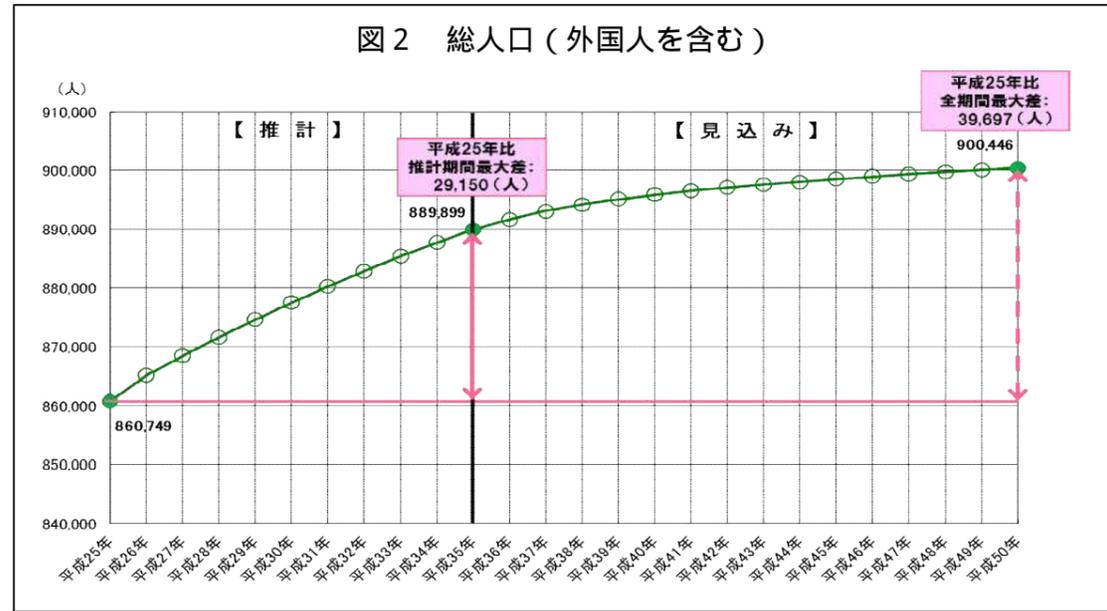
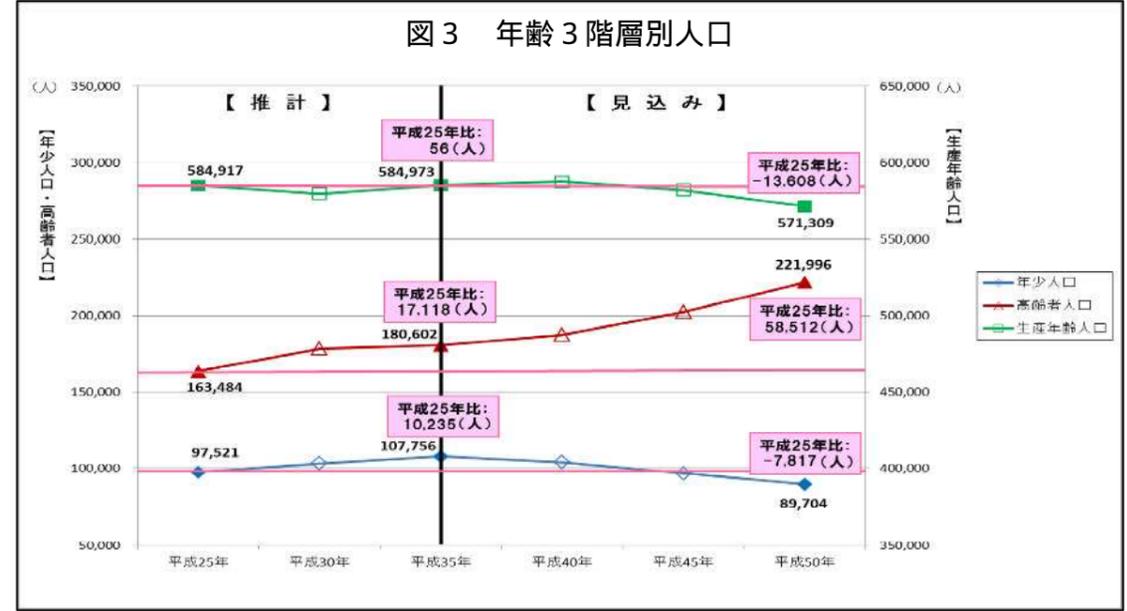
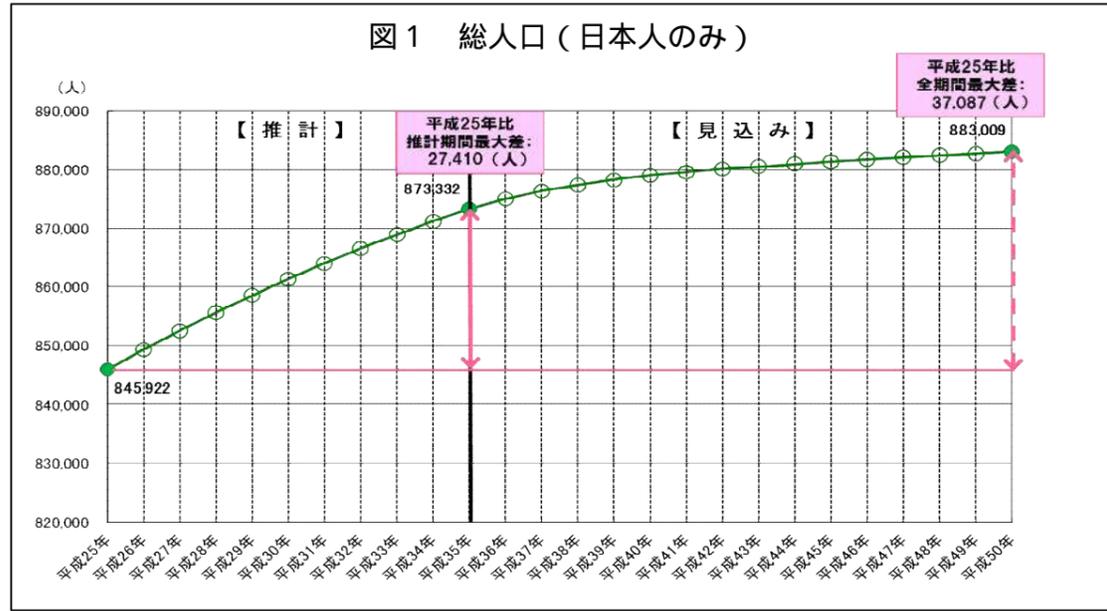
(1) 総人口（日本人のみ）

高位推計（シナリオ推計）では、世田谷区の総人口は平成 35 年に 879,629 人となり、現在の人口（平成 25 年）より 33,707 人増加する。また、同年の基本推計値の 873,332 人を 6,297 人上回っている。【図 1 1】

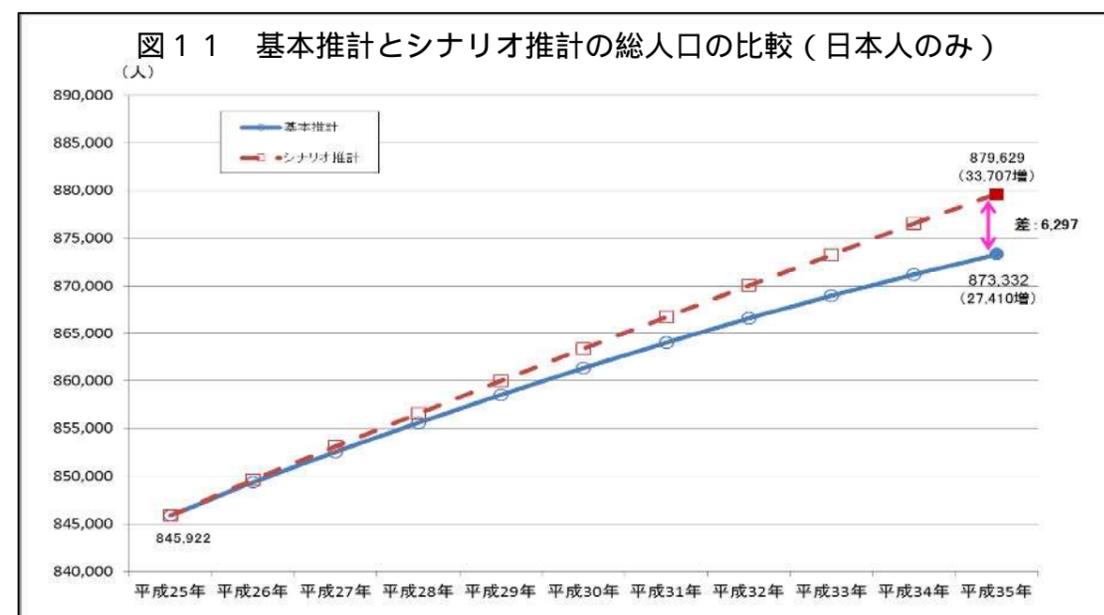
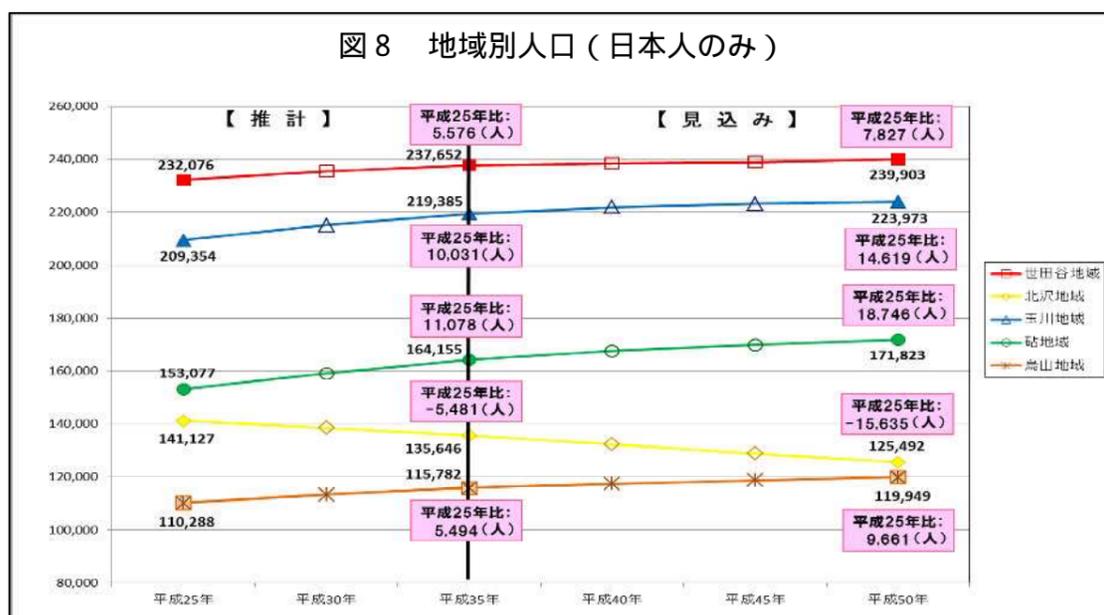
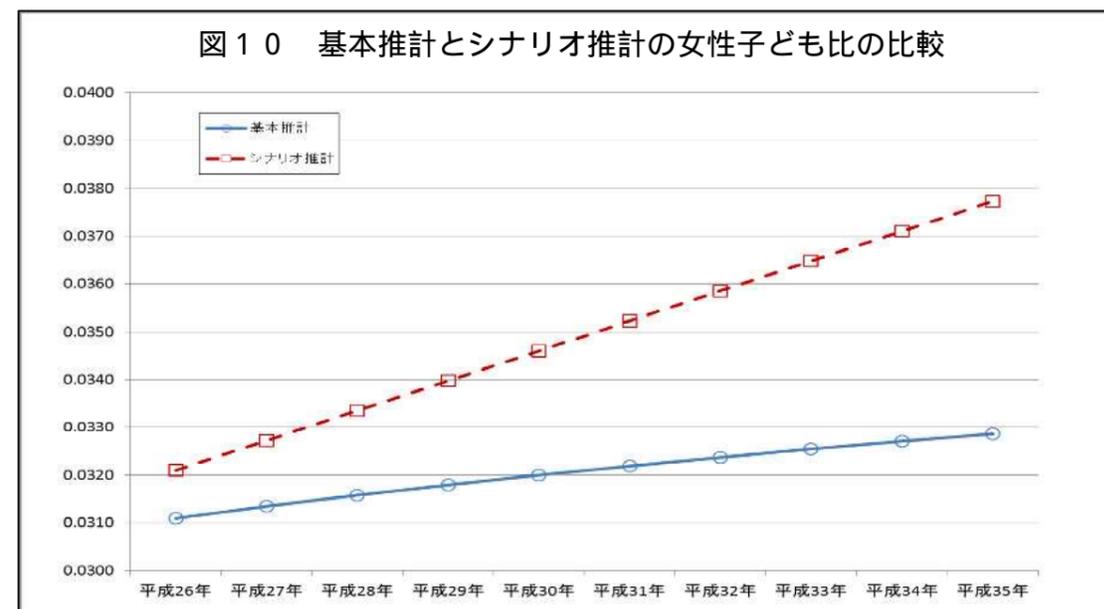
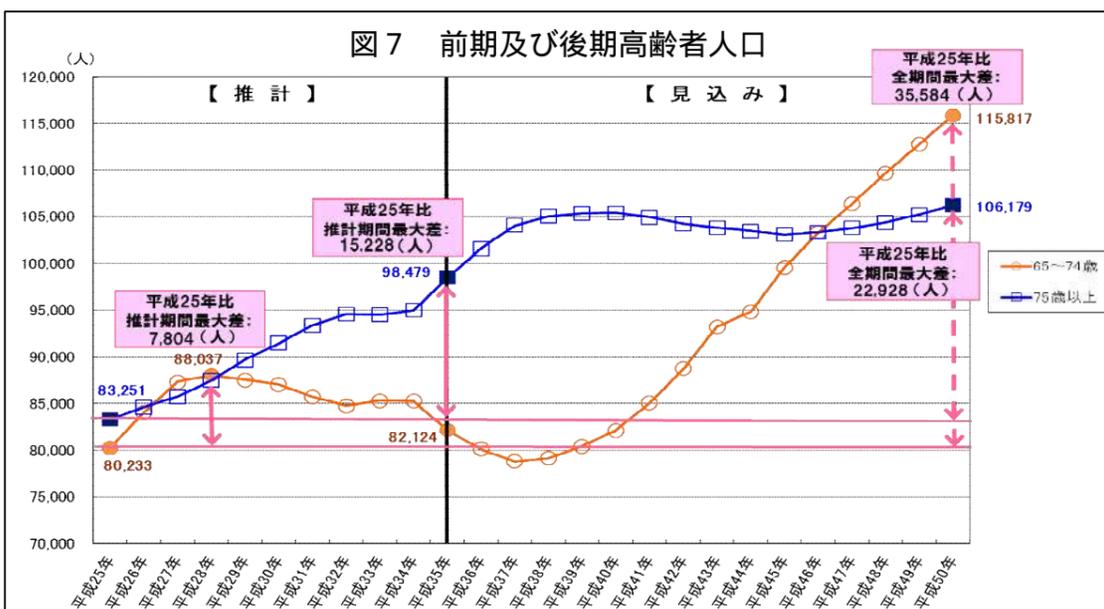
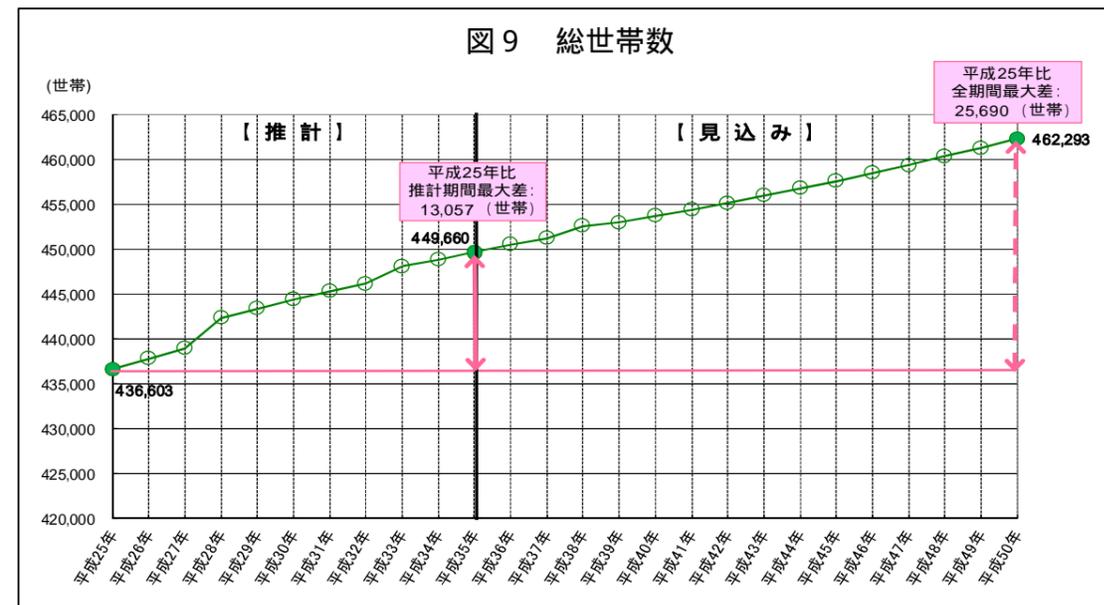
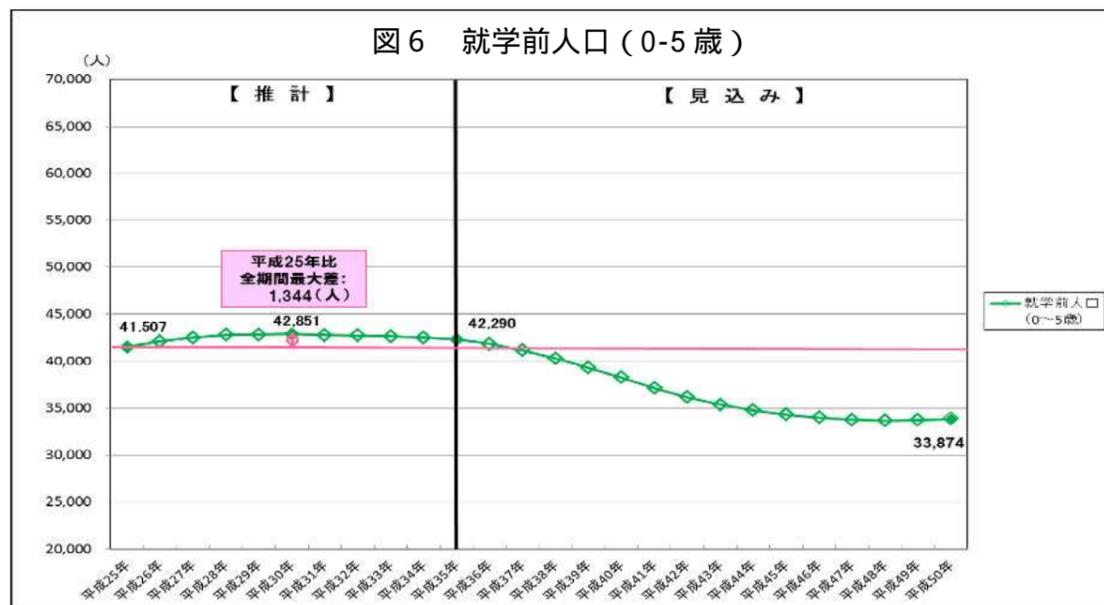
表 9 総人口の推移

(単位：人)

総人口	現 在	推 計	
	H25 年	H30 年	H35 年
日本人のみ	845,922	863,396	879,629



区の人口は図2以外は、外国人人口を含まない



区の人口は図2以外は、外国人人口を含まない